

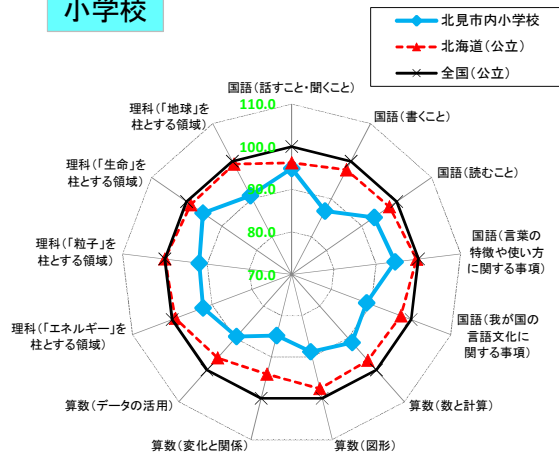
■北見市内の状況及び学力向上策（小学校数:22校、児童数:643人）（中学校数:13校、生徒数:809人）

【教科全体の状況】

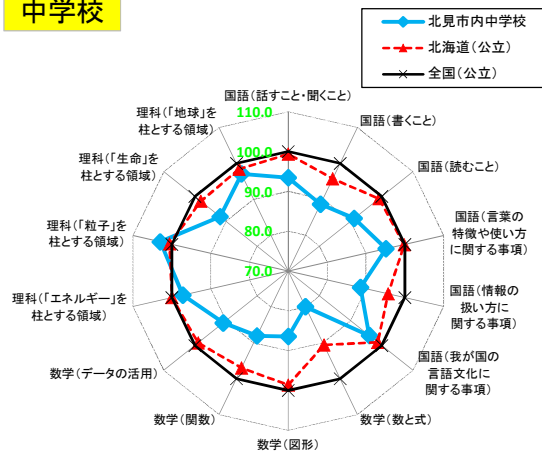
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	65
算数・数学	57	44
理科	59	48

小学校

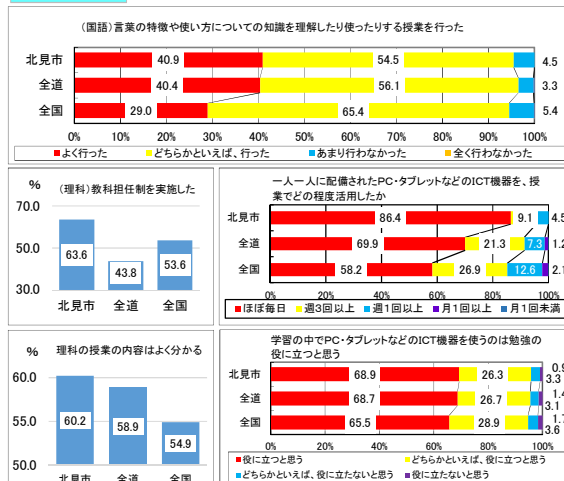


中学校

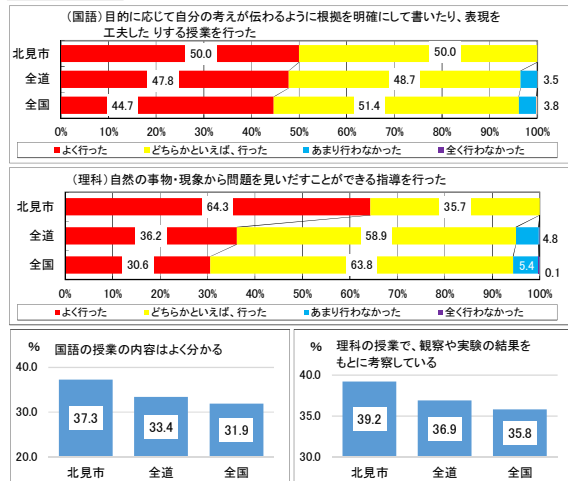


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

理科の授業において、教科担任制を実施したことにより、理科の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

端末を活用した子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業の実践を推進したことにより、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用する学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回っていると考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

理科の授業において自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【北見市の学力向上策】

- ◎ 「北見市学力向上3つのスタンダード」(学習環境をつくる・指導技術をみがく・指導方法を工夫する)の取組の推進
- ◎ 端末を活用した子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の授業の実践
- ◎ 教職員の授業力・指導力向上に向けた指導力向上推進事業等の研修会の実施
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活環境づくりの取組

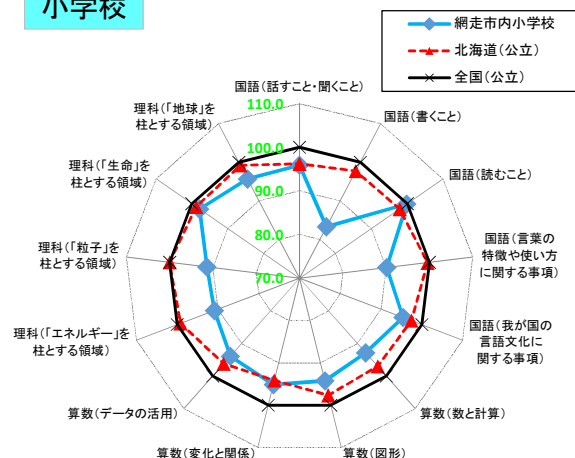
■網走市内の状況及び学力向上策（小学校数：8校、児童数：167人）（中学校数：6校、生徒数：193人）

【教科全体の状況】

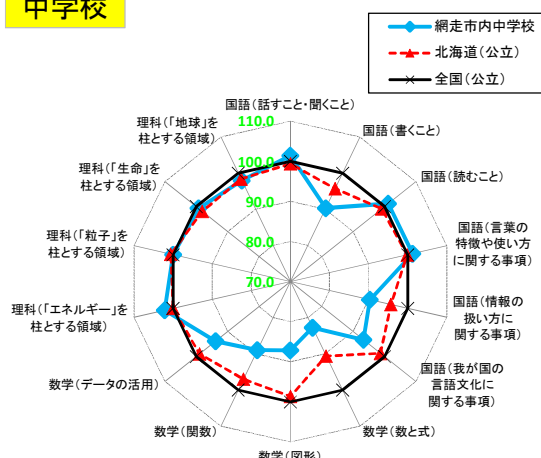
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	68
算数・数学	59	45
理科	60	49

小学校

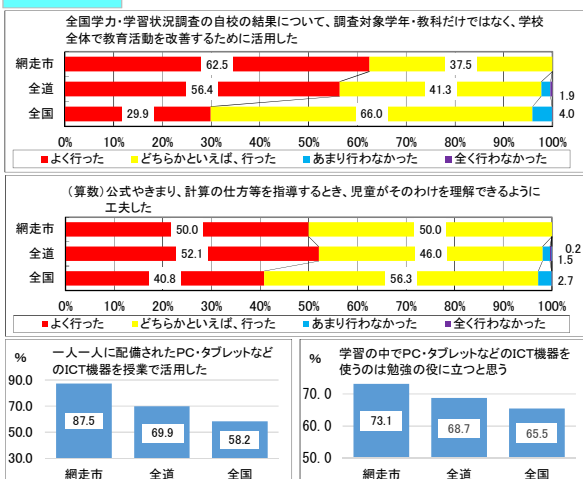


中学校

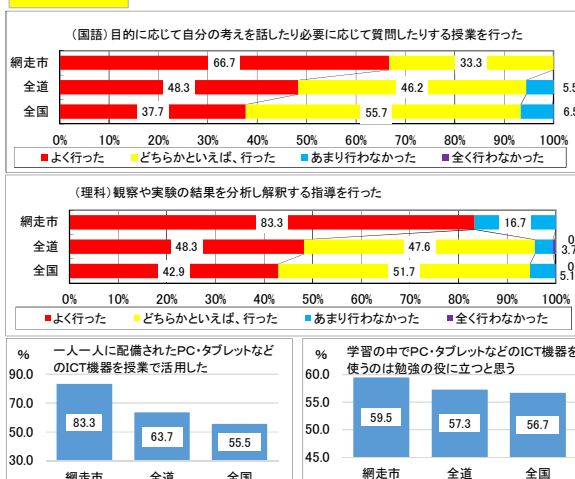


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことにより、学習内容の理解が深まり、「読むこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、算数では、「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会等に取り組んだことにより、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器が日常的に活用され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科では、「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
市全体で、1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会等に取り組んだことにより、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器が日常的に活用され、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【網走市の学力向上策】

- ◎ 市内全校の公開研究会の実施及び各研究会や研修会への教職員の参加、学力フォーラムの実施等による指導方法工夫改善の全体化
- ◎ 基礎・基本の定着に向けた算数科・数学科における学習支援員の配置による少人数指導や補習学習の実施
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための生活リズムチェックシートの積極的な活用
- ◎ 1人1台端末等ICT機器を効果的に活用した授業改善のための調査研究及び研修会等の実施

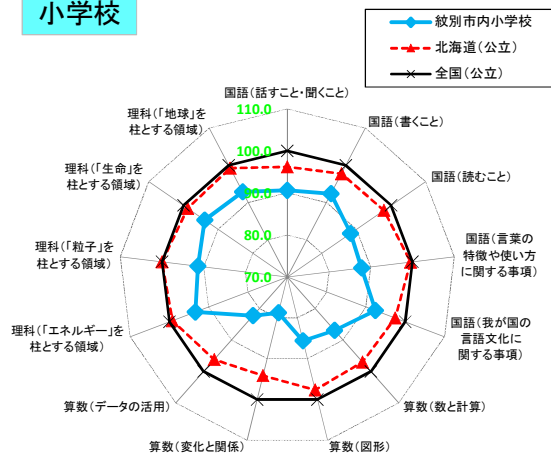
■紋別市内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:125人）（中学校数:3校、生徒数:112人）

【教科全体の状況】

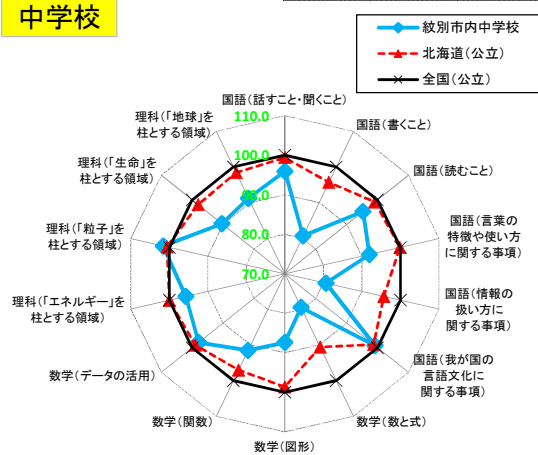
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	66
算数・数学	54	45
理科	58	47

小学校

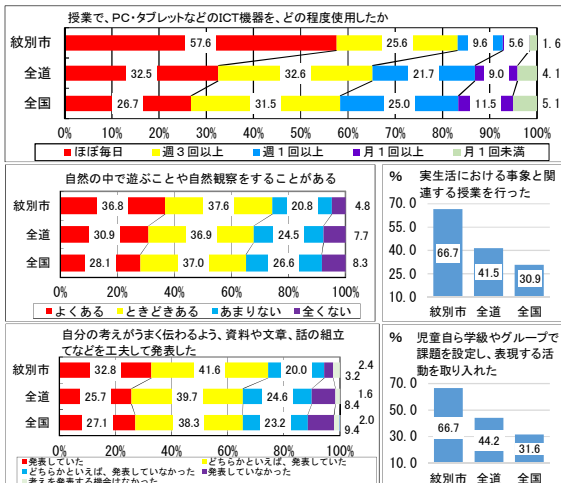


中学校

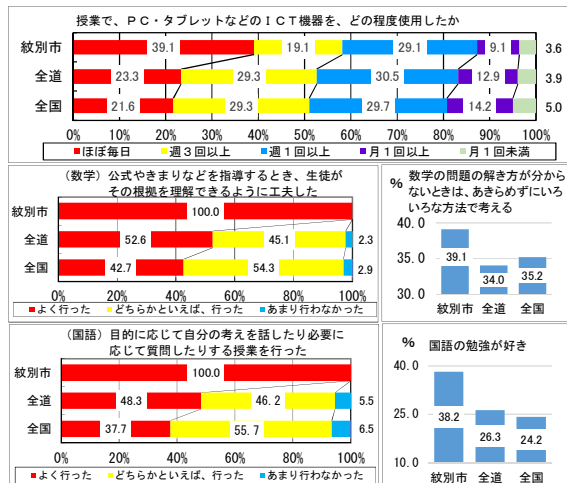


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、表現する活動を取り入れたことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に近くなっていると考えられる。
理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、自然の中で遊ぶことや自然観察することがよくあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に近くなっていると考えられる。
市全体で、1人1台端末の活用に関わる研修会を定期的に開催し、1人1台端末を積極的に活用したことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器を活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと回答した生徒が全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に近くなっていると考えられる。
数学の授業では、前年度までに公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法で考えると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、数学では、「データの活用」の領域で全国の平均正答率に近くなっていると考えられる。
市全体で、1人1台端末の活用に関わる研修会を定期的に開催し、1人1台端末を積極的に活用したことにより、授業でPC・タブレットなどのICT機器を活用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【紋別市の学力向上策】

- ◎ 「紋別市教育向上プロジェクト(MKP)会議」による学力向上・GiGAスクールに関する小中連携
- ◎ 職員研修事業(「MKP研修シリーズ」「MKPフォーラム」他)の実施
- ◎ 学校図書館司書の全校配置(一部常駐)、学校図書充実による学校図書館の活用促進
- ◎ 学力知能状況調査事業による全学年の学力等の分析
- ◎ 読解力向上プロジェクト、EdTechなど、外部機関との連携による学力向上策の実施
- ◎ 教育委員会、総合教育会議による住民、地域の学力に関する意識の醸成

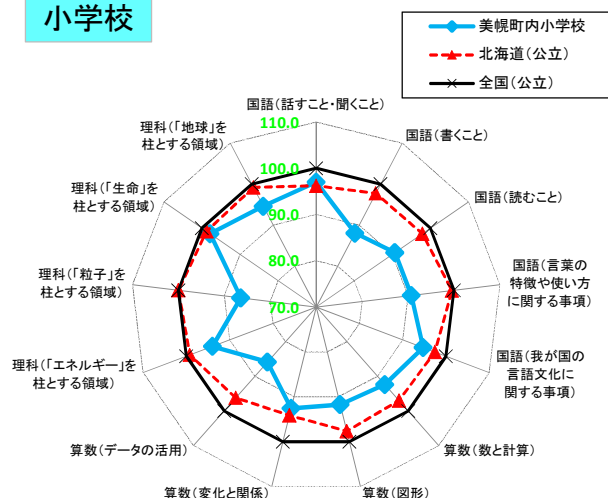
■美幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:130人）（中学校数:2校、生徒数:117人）

【教科全体の状況】

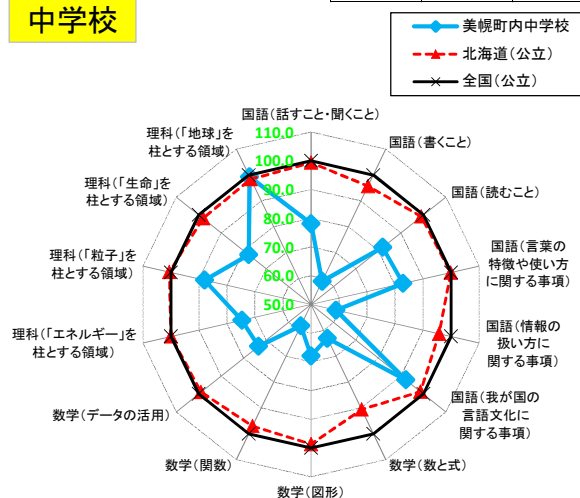
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	58
算数・数学	58	34
理科	59	42

小学校

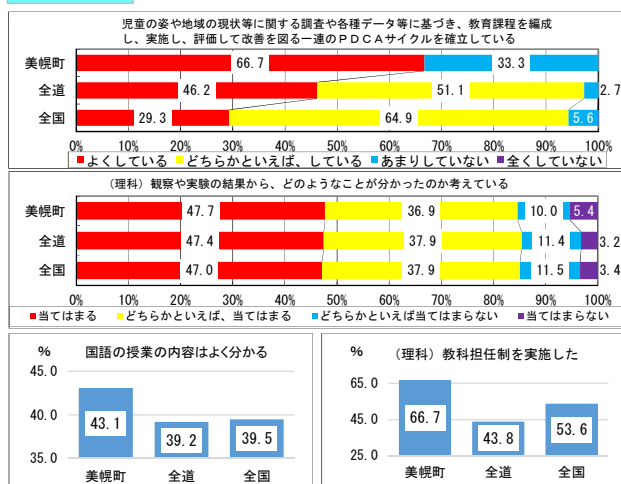


中学校

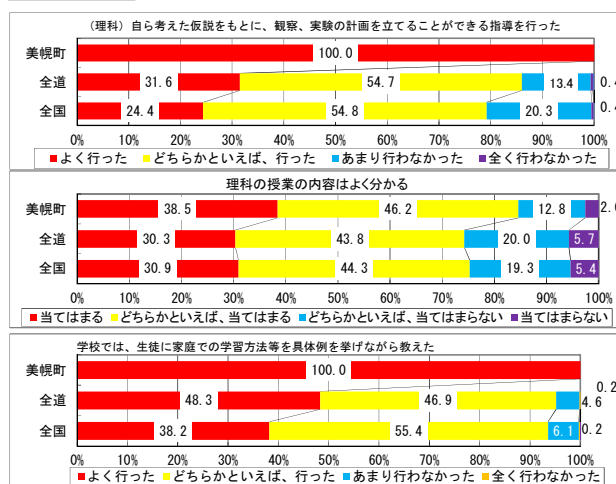


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づく一連のPDCAサイクルを確立していることにより、各学校において、課題となる教科や領域に重点を置いた授業改善が推進され、国語の授業の内容はよく分かれると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

理科の授業において教科担任制を実施したことにより、学習内容の理解が深まり、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考える児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率が最も近づいたと考えられる。

中学校

理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てることができる指導を行ったことにより、生徒が探究する力が高まり、理科の授業はよく分かれると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

町において、「家庭学習の指標」の作成及び活用を進めるとともに、学校では、生徒に家庭学習の方法を具体例を挙げながら教えたことにより、個別最適な学びや、自らの課題解決のための家庭学習が推進され、国語では、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

【美幌町の学力向上策】

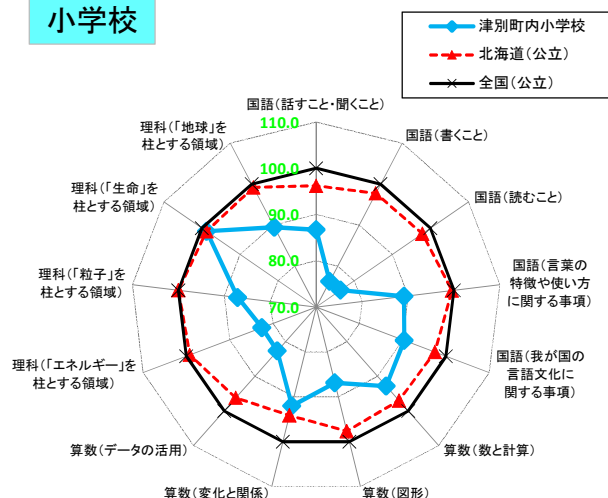
- ◎ 「読書の大切さ」を家庭に啓蒙するとともに、図書館と連携し「読書好き」な子を育成する取組
- ◎ 家庭における学習習慣を確立するための小中一貫した「家庭学習の指標」の作成と積極的な活用
- ◎ 若手・中堅教職員の授業力・指導力向上に向けたICTを活用した研修会や公開研究会の実施

■津別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:14人）

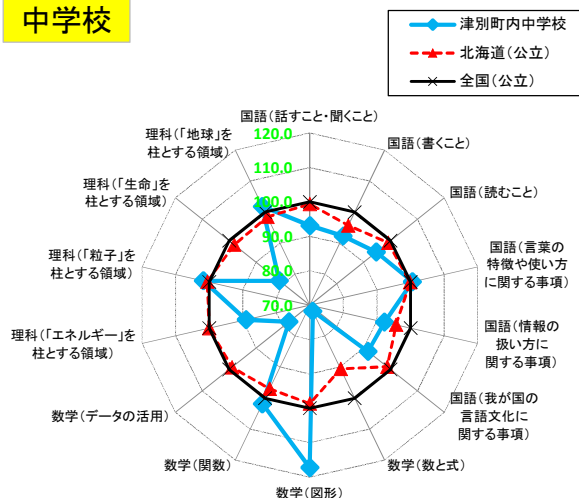
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

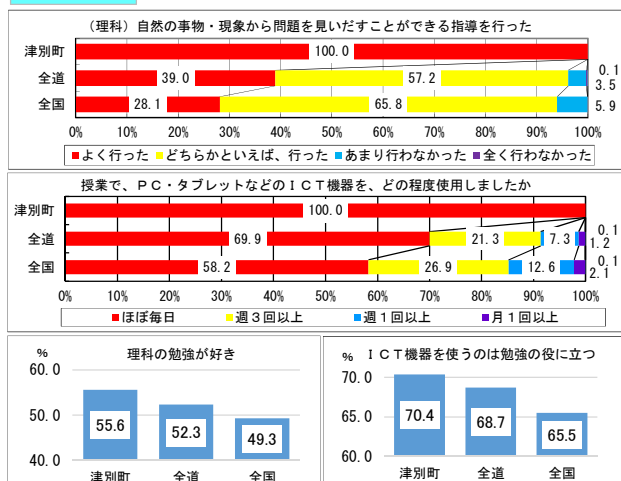


中学校

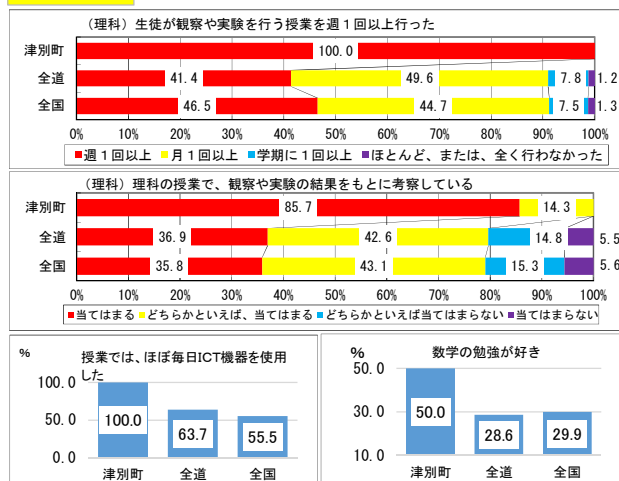


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、児童の学習意欲が高まり、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で、平均正答率が全国の値に最も近付いたと考えられる。

授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことから、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは学習の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、「数と計算」の領域で平均正答率が全国の値に最も近づいたと考えられる。

中学校

理科の授業において、生徒が観察や実験を行う授業を週1回以上行ったことにより、観察や実験の結果をもとに考察すると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、PC・タブレットなどのICT機器を活用したことにより、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、数学では、「図形」「関数」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【津別町の学力向上策】

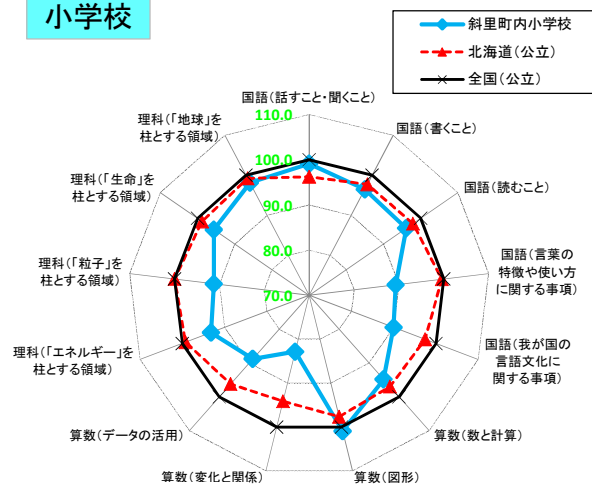
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ◎ ICT教育環境の整備
- ◎ 学校図書館の充実
- ◎ 家庭学習の習慣化

■斜里町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:77人）（中学校数:2校、生徒数:66人）

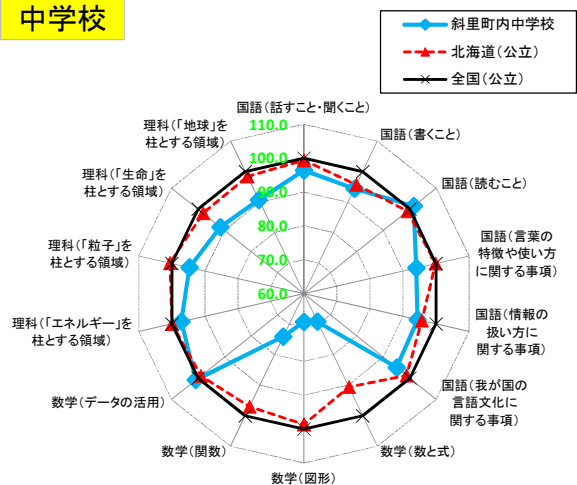
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

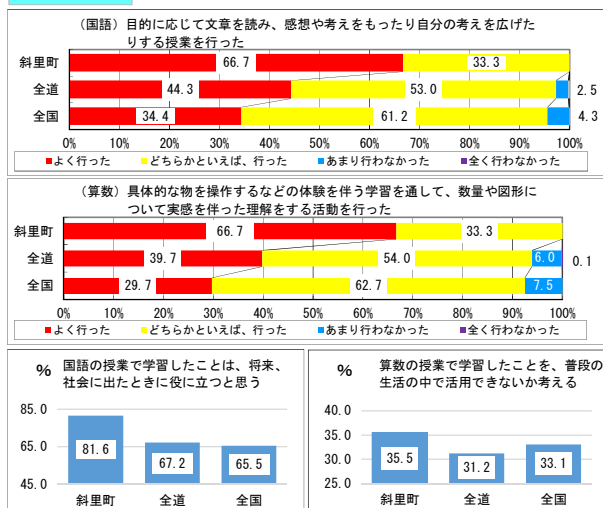


中学校

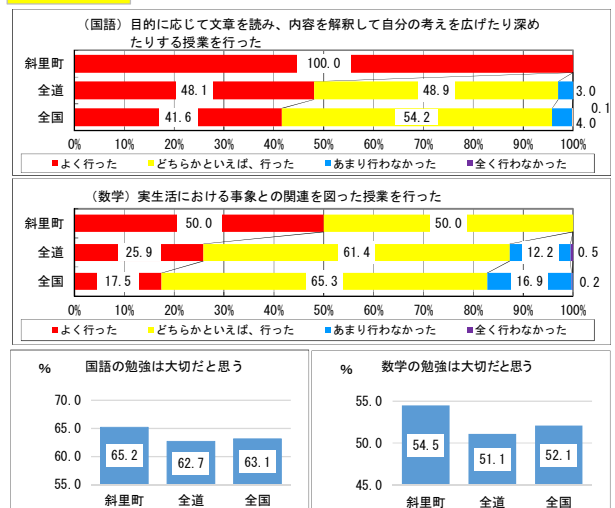


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考える児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思う生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思う生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、数学では、「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【斜里町の学力向上策】

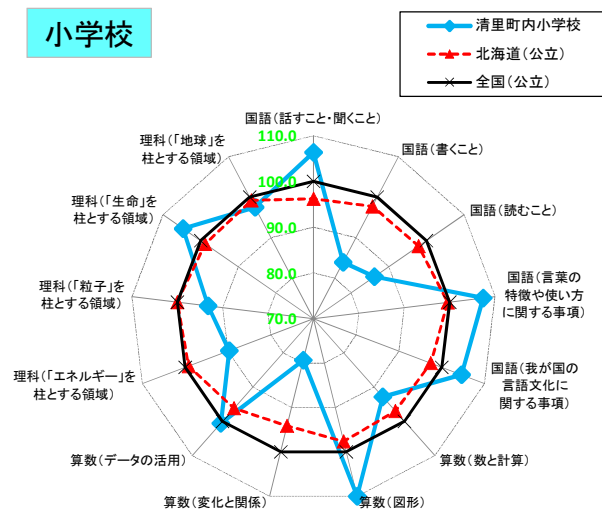
- ◎ 義務教育学校における小中一貫教育及び中学校を軸とした小中連携教育の充実
- ◎ 町内全校における、特色ある学校づくりを支援する校長提案型事業の実施
- ◎ 1人1台端末などICT機器を積極的に活用した授業改善の推進
- ◎ 教育活動支援講師の配置と放課後や長期休業中の学び直しの機会の提供等、きめ細かな学習環境の整備
- ◎ 学習習慣や生活習慣の定着を目指した年8回程度の土曜授業の実施

■清里町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:33人）

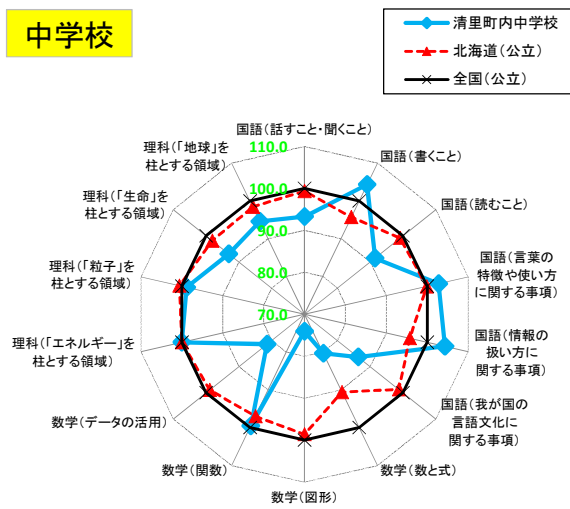
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

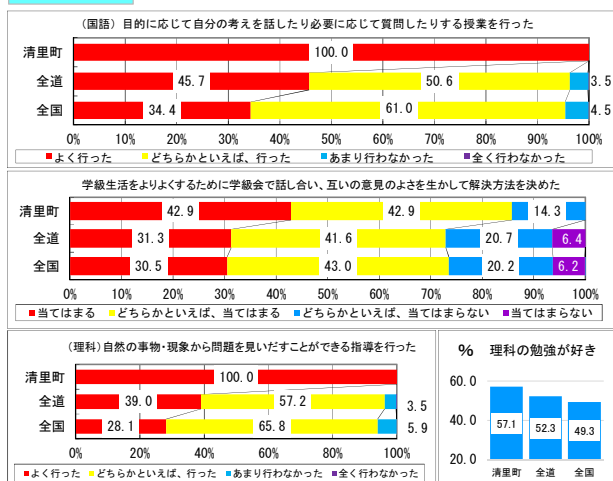


中学校

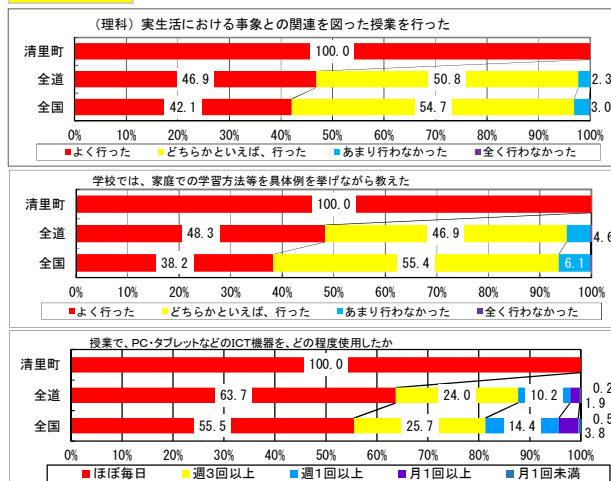


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業では、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

理科の授業では、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科では、「エネルギー」を柱とする領域で、全国の平均正答率と同率となったと考えられる。

学校では、家庭学習の学習方法等を具体例を挙げながら教えたり、授業でほぼ毎日PCやタブレットなどのICT機器を活用した授業を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語では、「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」、「情報の扱いに関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【清里町の学力向上策】

- ◎ 個別支援や習熟度別指導のための支援員の配置
- ◎ 小学校・中学校・高等学校の連携による長期休業期間中の補充的な学習サポート教室の実施
- ◎ 小学校・中学校・高等学校への外国人英語講師の派遣
- ◎ ICT機器を活用した効果的な授業改善を推進するために大型提示装置（プロジェクター、大型テレビなど）の設置

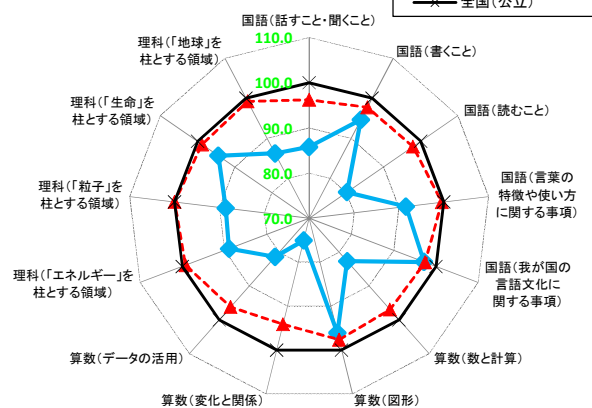
■小清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:37人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

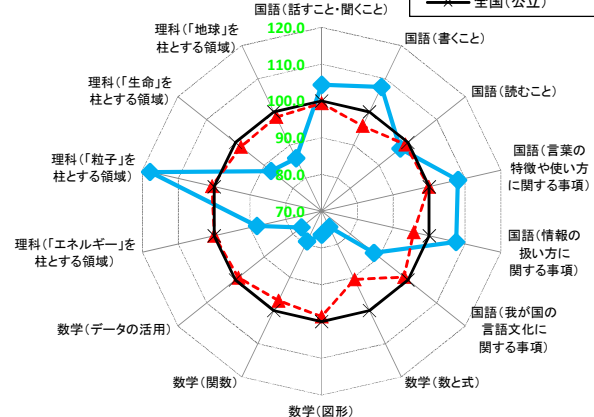
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	69
算数・数学	53	39
理科	57	45

小学校

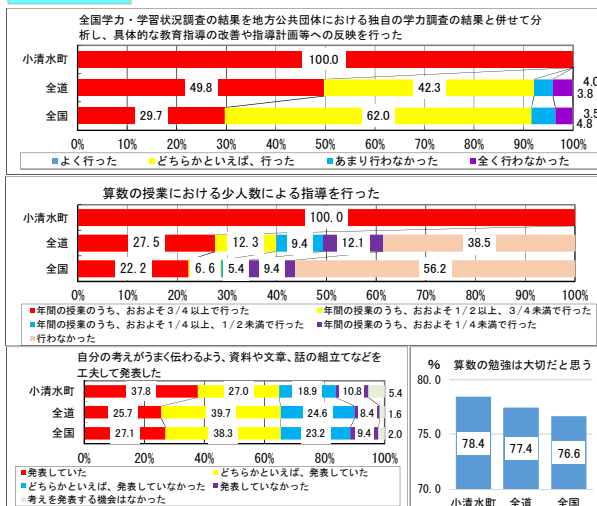


中学校

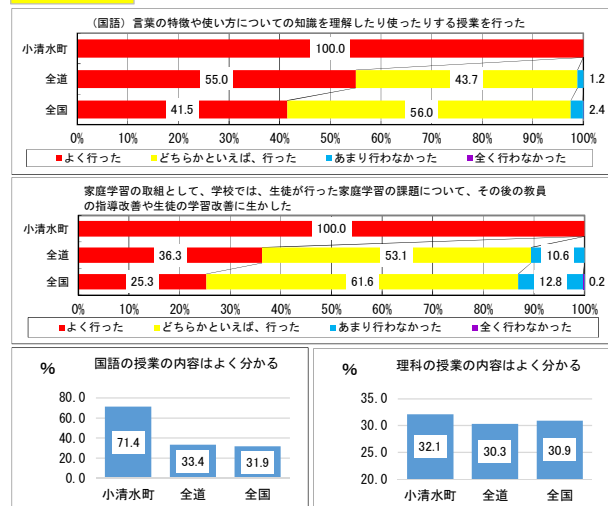


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、全国学力・学習状況調査の結果を標準学力検査（CRT）の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

算数の授業における少人数による指導を行ったことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科において、家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、理科の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、理科では、「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【小清水町の学力向上策】

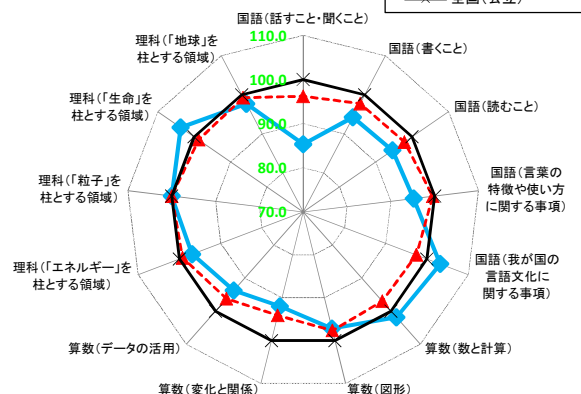
- ◎ 土曜授業の実施による反復学習の時間の確保
- ◎ 小中一貫教育による義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成と実践
- ◎ 家庭と連携した学習習慣の確立と望ましい生活習慣づくりの取組
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業改善の推進

■訓子府町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:46人）（中学校数:1校、生徒数:29人）

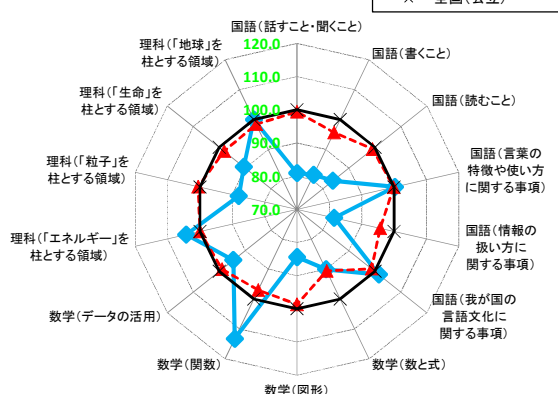
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

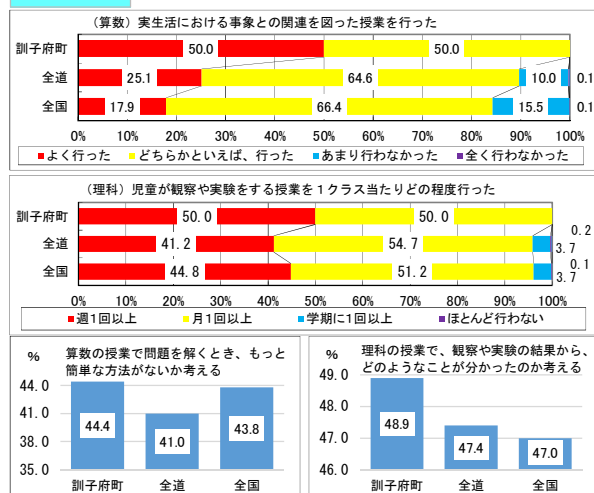


中学校

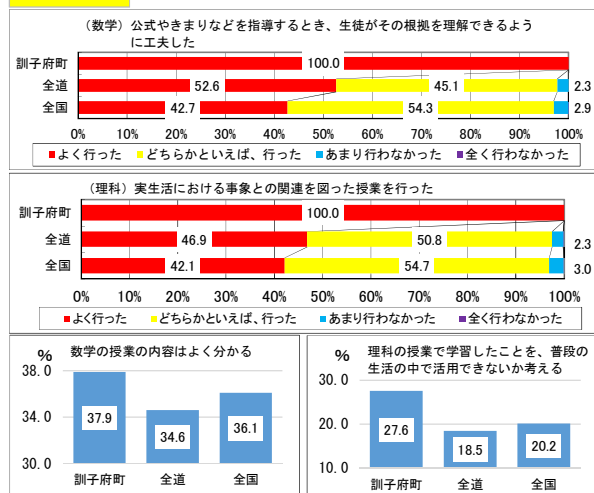


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象と関連を図った授業をよく行ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、算数では、「数と計算」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、児童が観察や実験をする授業を多く実施したことにより、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考えると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の理解が深まり、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全道及び全国を上回るとともに、数学では、「関数」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象と関連を図った授業をよく行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「地球」「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

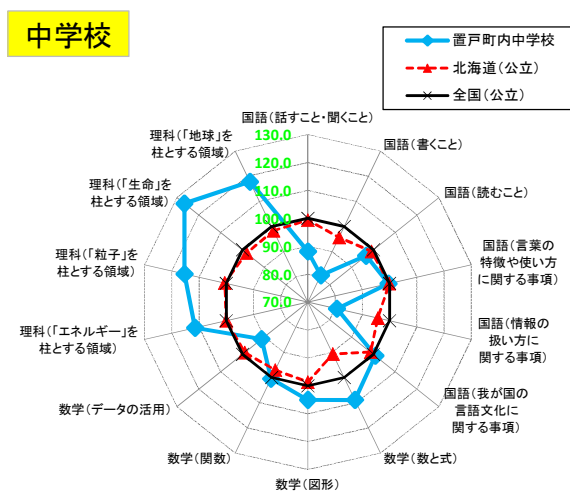
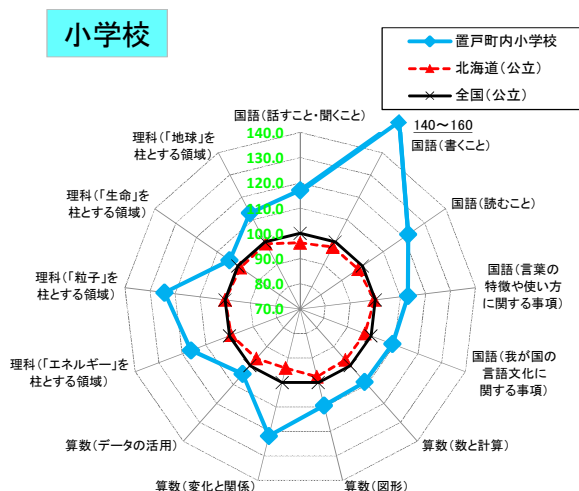
【訓子府町の学力向上策】

- ◎ 町負担臨時講師を活用したチーム・ティーチングや習熟度別少人数指導の充実
- ◎ 算数専科加配教諭による指導の充実
- ◎ 放課後や長期休業中の学習サポートの継続的な実施
- ◎ 児童生徒の読書意欲の向上を図る図書室の整備と蔵書数の充実
- ◎ 地域の多様な人材や施設などの地域資源を生かした教育の充実
- ◎ タブレット等のICTを活用した学びを深める授業の充実

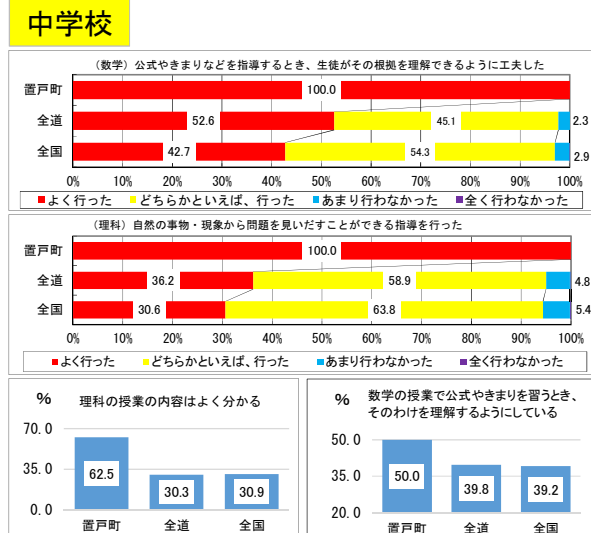
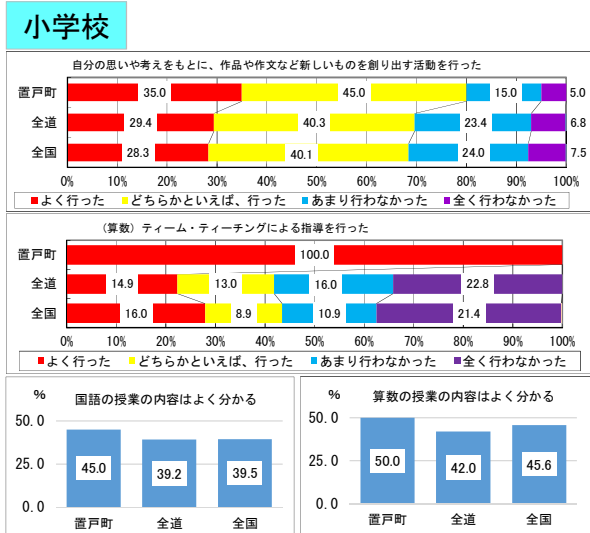
■置戸町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:16人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
授業において、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、全ての領域・事項において全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
算数の授業において、ティーム・ティーチングによる個別指導の充実を図ったことにより、学習内容の理解が深まり、算数の授業はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、全ての領域において全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校
数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学では、「数と式」「関数」「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだす指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【置戸町の学力向上策】

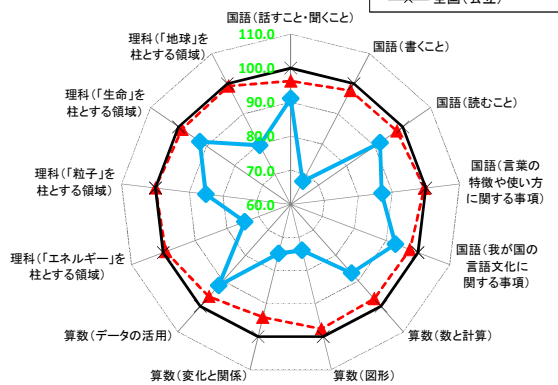
- ◎ 小・中学校で連携した学習規律「置戸スタンダード」の取組
- ◎ 小中一貫教育の一環として、中学校の英語教員が小学校で乗り入れ授業を実施
- ◎ 児童の基礎学力の定着に向けた学習支援員の配置
- ◎ 夏季及び冬季休業中における「学習サポート」の実施
- ◎ 特別支援教育の充実を図るための支援員の配置
- ◎ 外国語教育の充実を図るための外国語指導助手の派遣

■佐呂間町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：29人）（中学校数：1校、生徒数：31人）

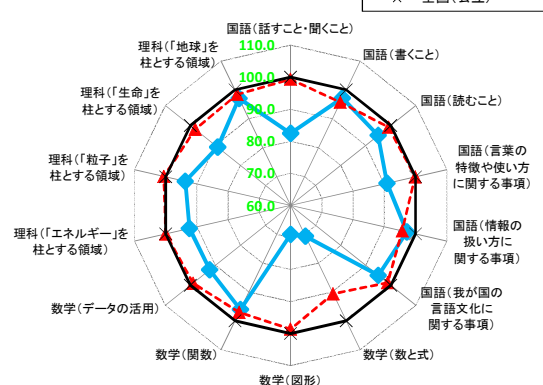
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

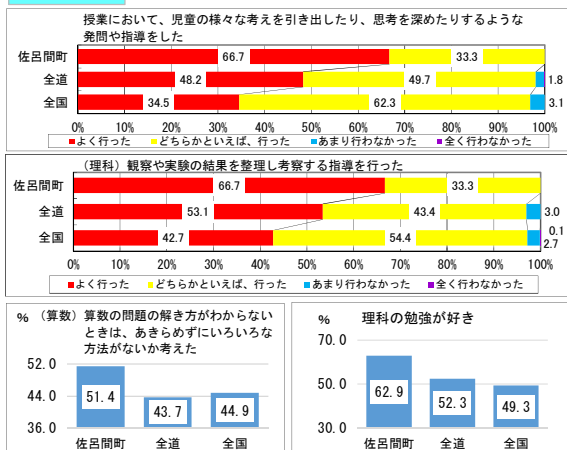


中学校

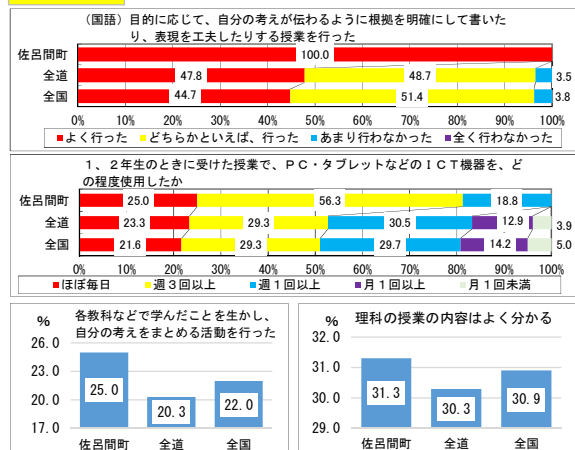


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、算数の問題の解き方がわからないときは、あらかじめいろいろな方法がないか考えた割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「データの活用」の領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫したりする授業を行ったことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域、「情報の扱い方に
関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

理科の授業において、PC・タブレットなどのICT機器を活用したことにより、学習内容の理解が深まり、理科の授業の内容はよく分かる割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【佐呂間町の学力向上策】

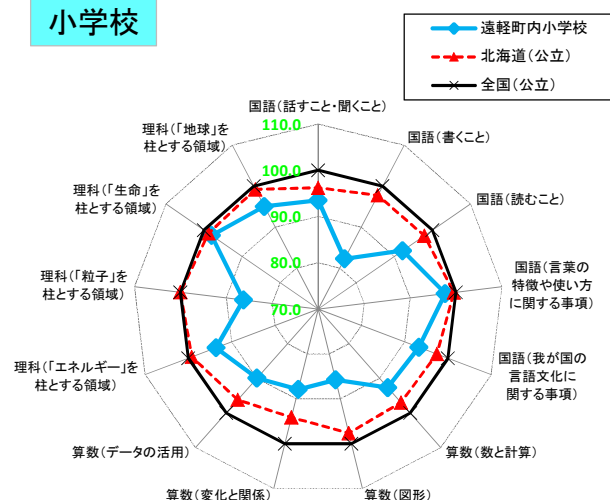
- ◎ 家庭学習の習慣化や、放課後及び長期休業中の補足的な学習サポートの実施、チャレンジテストの活用、学習規律の指導
- ◎ 教員の指導力向上のための教育委員会主催研修の開催、各種研修会への参加奨励及び経費予算付け、指導主事訪問、ICT環境の有効活用
- ◎ 「オールオホーツクで学力向上を！」に基づいた佐呂間町学力向上推進委員会の設置・運営及び小・中・高校の連携強化
- ◎ 1人1台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実及びWEBQ UやRST等の活用

■遠軽町内の状況及び学力向上策（小学校数:8校、児童数:143人）（中学校数:7校、生徒数:138人）

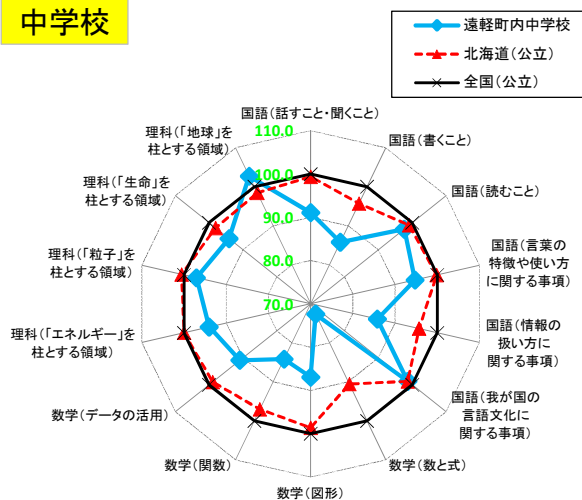
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

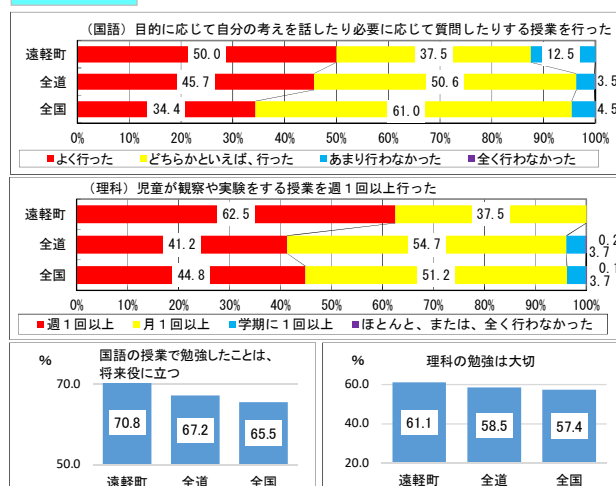


中学校

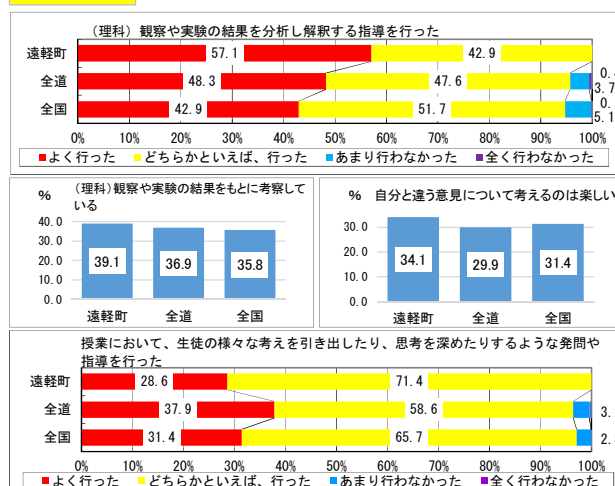


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、児童の学習の理解が深まり、国語の授業で学習したことは将来役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で最も全国の平均正答率に近づいたと考えられる。

町内の半数以上の学校が、理科の授業において、児童が観察や実験をする授業を週1回以上行ったことにより、学習内容の理解が深まり、理科の勉強は大切だと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近づいたと考えられる。

中学校

理科の授業において、町内の半数以上の学校で観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「読むこと」の領域で全国の平均正答率に近づいたと考えられる。

【遠軽町の学力向上策】

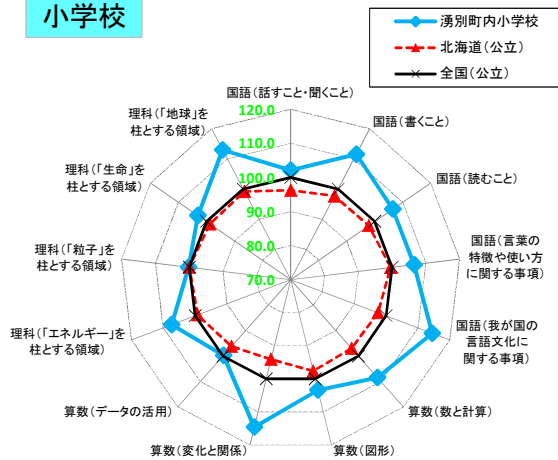
- ◎ コミュニケーション能力の向上と国際理解教育の推進
- ◎ 家庭と連携した学習の習慣化と規則正しい生活づくり
- ◎ 外国語活動における言語や文化に対する理解を深めるための英語指導助手の配置
- ◎ 確かな学力の育成・定着を図るための教育用ICT機器の活用

■湧別町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:37人）（中学校数:3校、生徒数:58人）

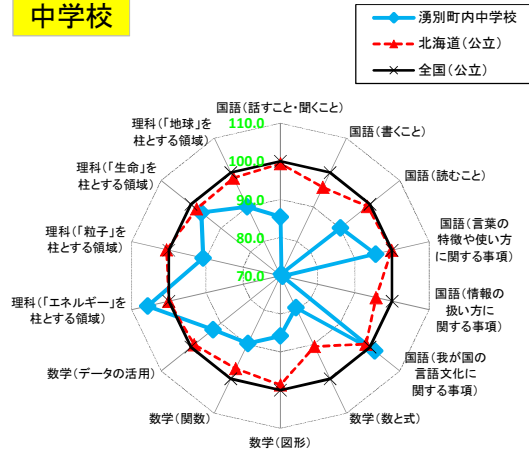
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

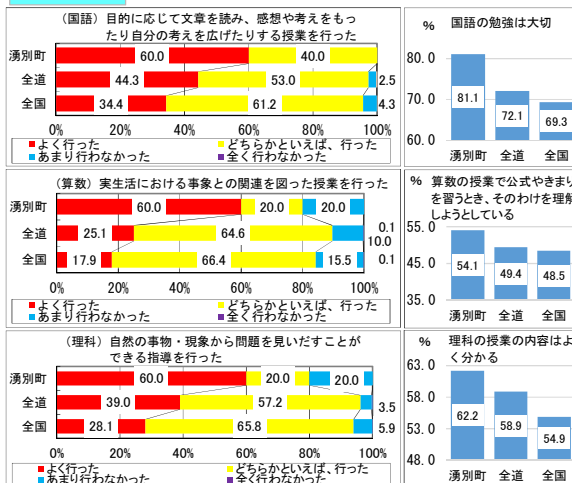


中学校

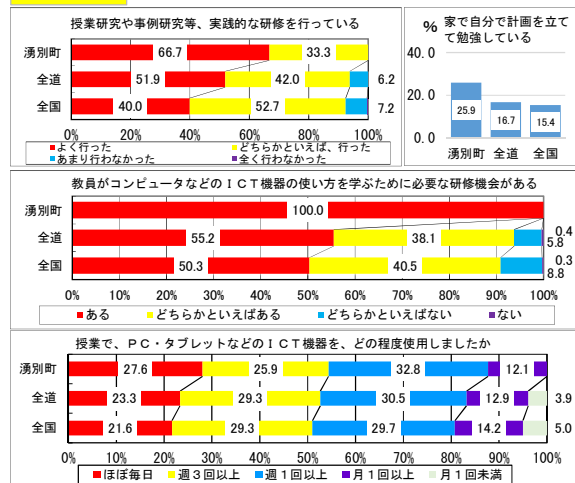


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強が大切と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、全ての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

算数の授業において、算数における事象との関連を図った授業を行うことにより、算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解しようとしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数では、全ての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の授業の内容がよく分かるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、全ての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

中学校

町全体で、全国学力・学習状況調査を活用した授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られ、生徒が主体的に学習に取り組み、自分で計画を立てて学習すると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「我が国の言語文化に関する事項」、理科では、「エネルギー」を柱とする領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

町全体で、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を開催し、授業にICT機器を積極的に活用したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【湧別町の学力向上策】

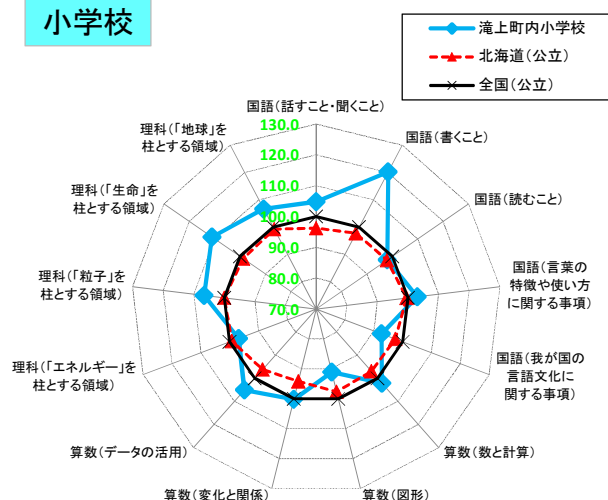
- ◎ 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- ◎ 全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善や学習習慣の確立
- ◎ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業やICT端末の効果的な活用
- ◎ 学力向上支援員や特別支援教育支援員等の配置の充実
- ◎ 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- ◎ 学校図書館支援事業による読書活動の推進

■滝上町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

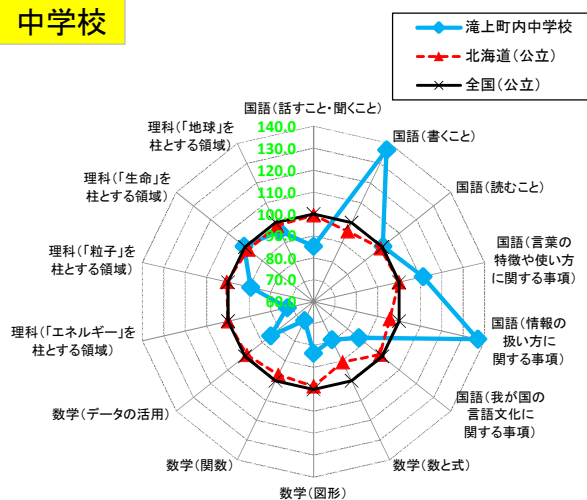
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

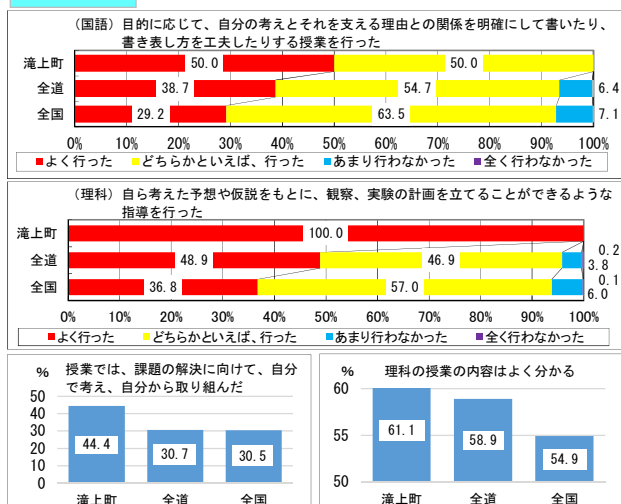


中学校

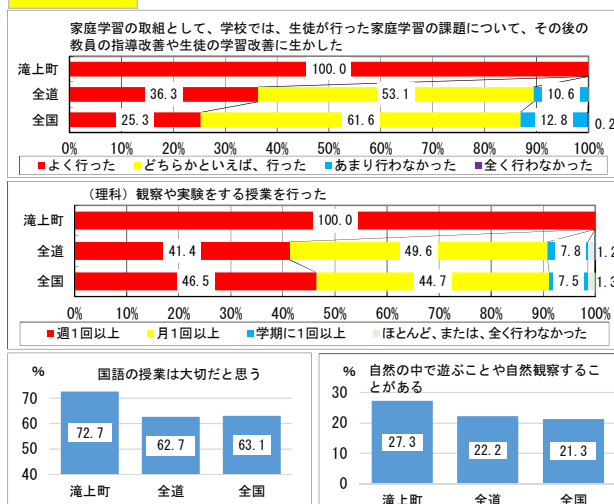


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたことにより、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」、「情報の扱い方に
関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験をする授業を週1回以上設定したことにより、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることよく行うと回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【滝上町の学力向上策】

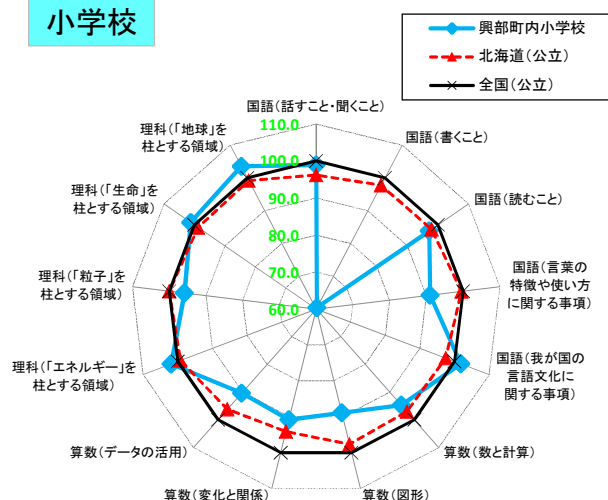
- ◎ 学習意欲の向上に効果的なICT機器等の導入と活用
- ◎ 長期休業中の学習サポートやほっかいどうチャレンジテストの効果的な活用
- ◎ 家庭学習習慣を身に付ける取組の推進
- ◎ 望ましい生活習慣の定着に向けた取組の推進

■興部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:29人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

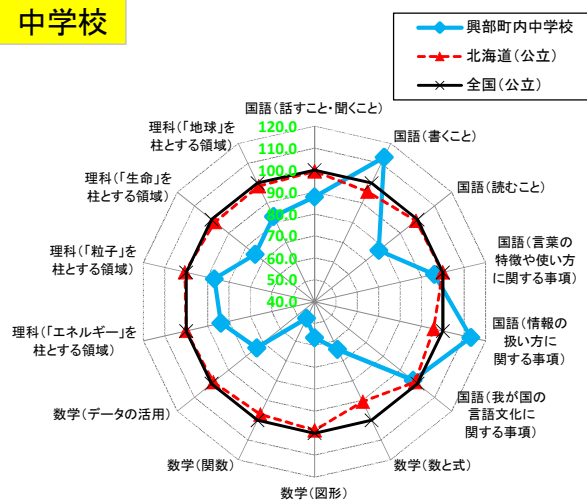
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

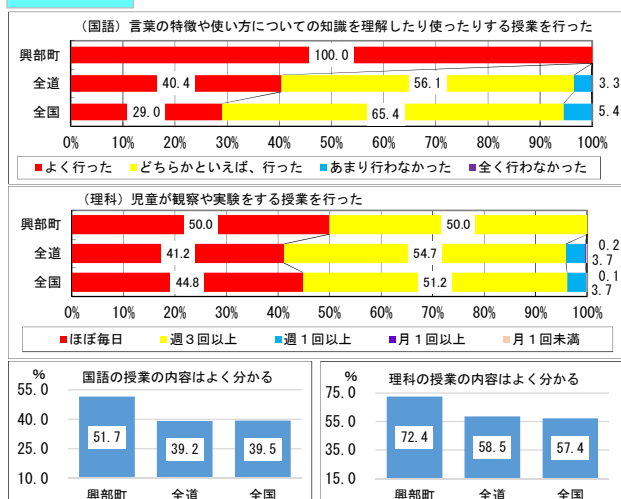


中学校

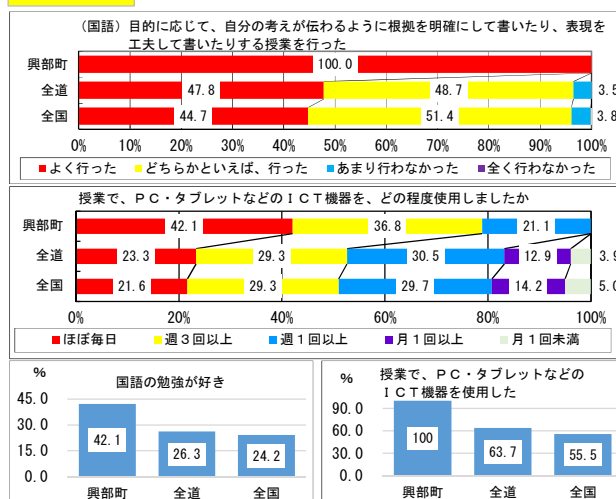


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方に）についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験をする授業を多く設定したことにより、理科の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、国語の授業が好きだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「書くこと」の領域、「情報の扱い方にに関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、1人1台端末や大型提示装置などのICTを活用した授業づくりを推進したことにより、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用した学校の割合が、全国及び全道を上回るとともに、授業でPC・タブレットをほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が、全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【興部町の学力向上策】

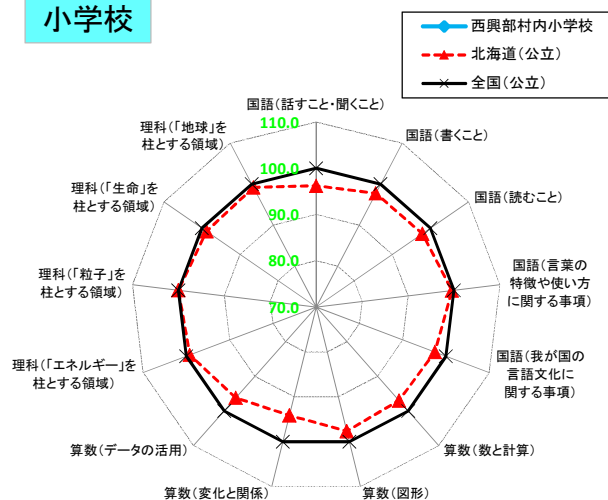
- ◎ 学生ボランティアを活用した補足的な学習サポートの実施
- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した家庭での学習習慣の確立
- ◎ 知能検査や標準学力検査の実施による学習状況の把握と個に応じた指導の充実
- ◎ 1人1台端末や大型提示装置などのICTを活用した授業づくりの推進

■西興部村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:9人）（中学校数:1校、生徒数:6人）

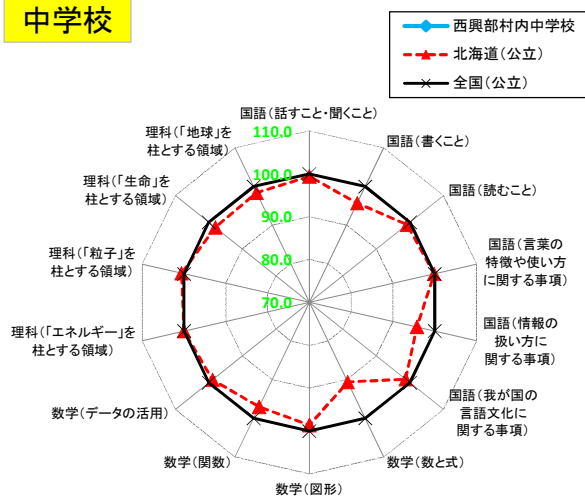
【教科全体の状況】※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、西興部村の教科及び児童質問紙のデータは掲載しない。

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

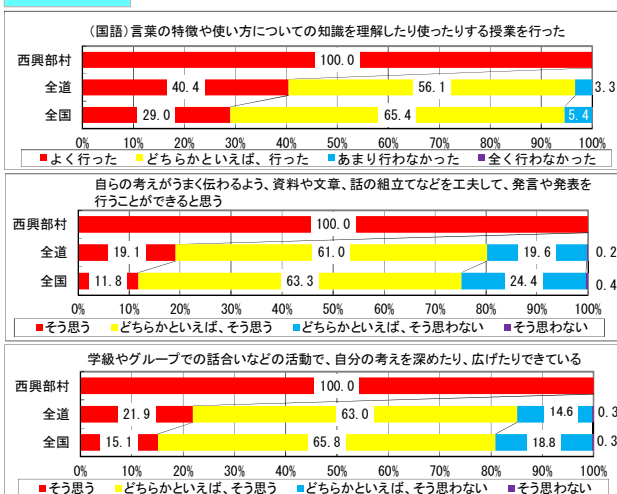


中学校

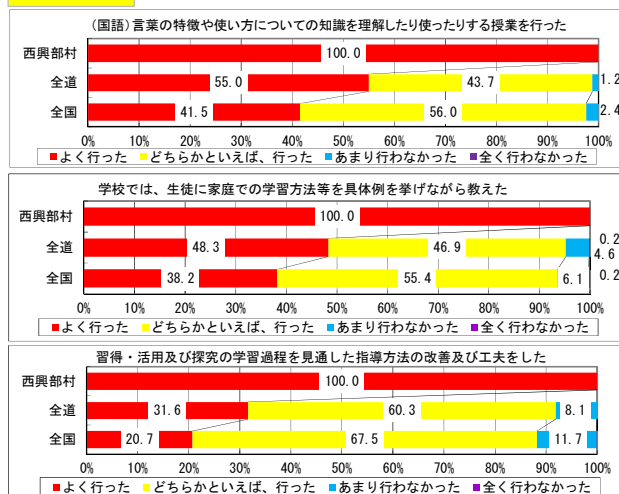


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

児童は、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができると回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていると回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

中学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったと回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。

【西興部村の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえ、個に応じた指導の充実
- ◎ 村教委が中心となったICT環境の整備
- ◎ 主体的な学習態度、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動や読書活動の充実

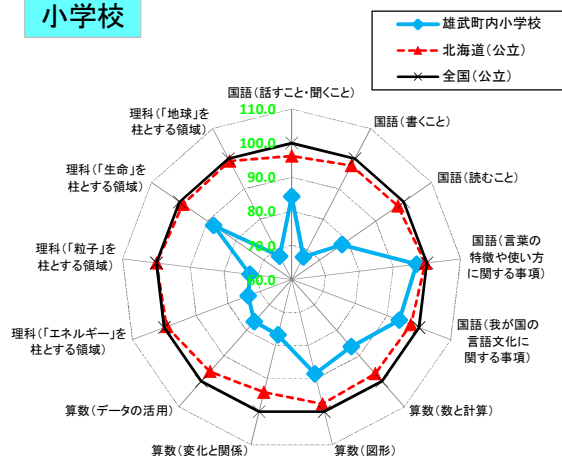
■雄武町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:31人）

【教科全体の状況】

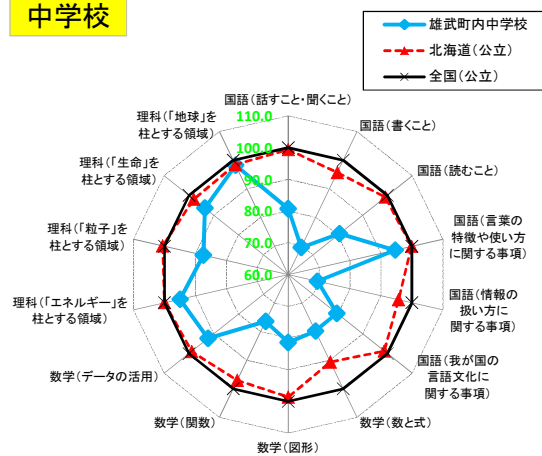
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	60
算数・数学	53	42
理科	49	46

小学校

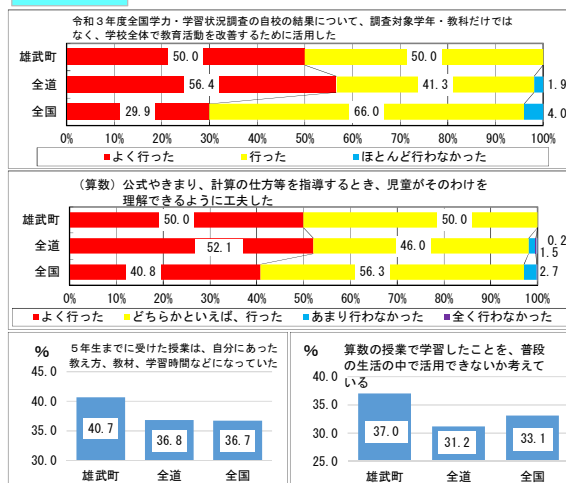


中学校

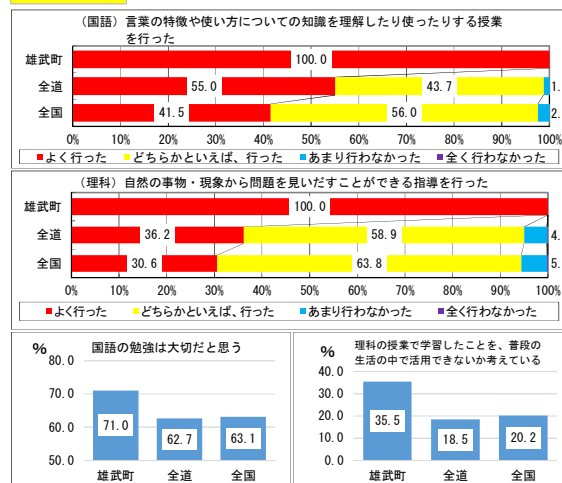


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

令和3年度全国学力・学習状況調査の各校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したことに、5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した児童の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、算数では、「図形」の領域で全国の平均正答率に近くなっていると考えられる。

中学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり伝えたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

理科の授業において自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した生徒の割合が、全国及び全道の割合を上回るとともに、理科では、「地球」を柱とする領域で、全国の平均正答率に最も近くなっていると考えられる。

【雄武町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査等の分析結果を踏まえた授業改善の取組
- ◎ ICTを活用した効果的な学びの推進及び家庭学習習慣の確立
- ◎ 学習規律の徹底及び授業のねらいや課題を明確にした問題解決的な学習の充実
- ◎ 教職員の自主的研修活動を奨励する教職員教育振興事業等の推進
- ◎ 読書活動の推進による「自ら学び、自ら考える力」の伸長

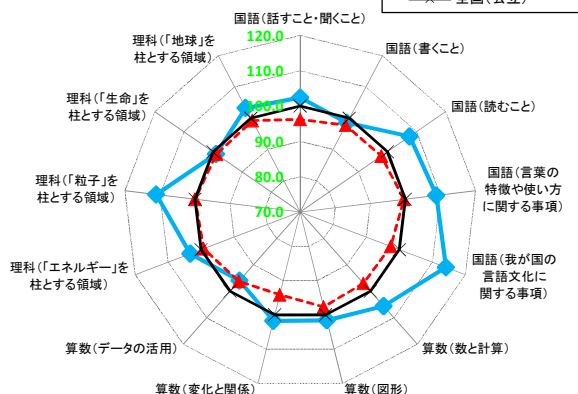
■大空町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:45人）（中学校数:2校、生徒数:48人）

【教科全体の状況】

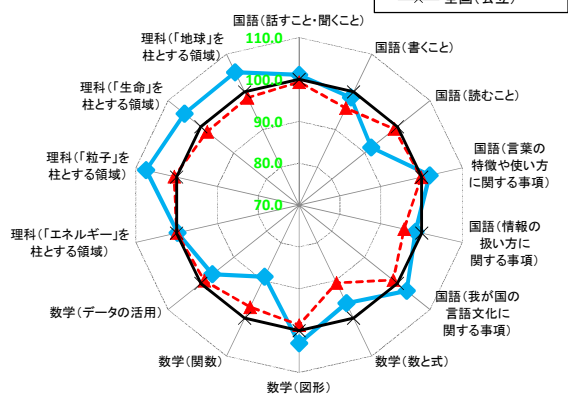
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	69
算数・数学	65	49
理科	65	51

小学校

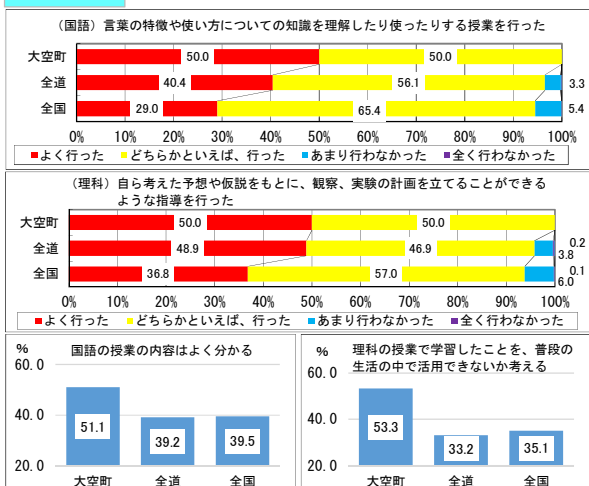


中学校

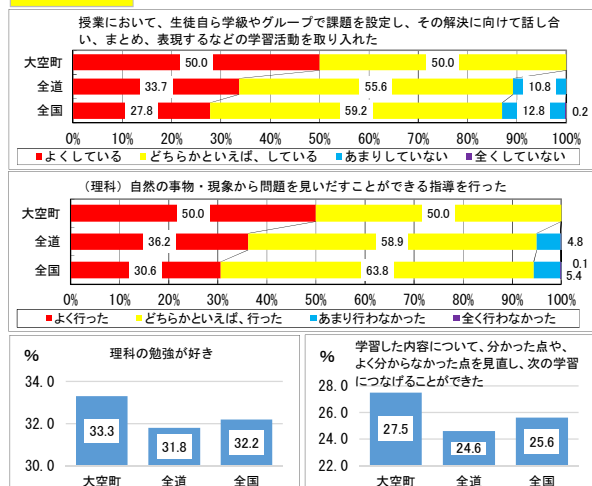


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、学習内容の理解が深まり、授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 理科の授業において、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるように授業を行ったことにより、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校
授業において、自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語では、「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 理科において、自然の事物・現象から問題を見いだす指導を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科では、「生命」「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

【大空町の学力向上策】

- ◎ 少人数指導・習熟度別指導やティーム・ティーチング、長期休業中の補充学習(学習サポート体制)など、一人一人に対応したきめ細かな指導の充実
- ◎ 全国学力・学習状況調査結果を基にした学校改善プランを策定し学習指導の工夫・改善
- ◎ ICT機器を活用した誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進
- ◎ ICT機器の活用により、「説明を聞く」に加えて「説明が見える」視覚情報を強化した授業づくり
- ◎ 図書館司書の巡回配置による読書活動の推進
- ◎ 家庭学習・宿題など、全校統一した取組による家庭における児童生徒の学習習慣の定着